令和６年度 第１回 高知市財政問題懇話会 会議録

【開催日時】　令和６年６月７日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

【場　　所】　本庁舎６階 611 会議室

【出 席 者】　・高知市財政問題懇話会委員８人（全員出席）
　　・桑名市長，神谷副市長，弘瀬副市長，財務部，総務部

【議　　事】
１．委嘱式
２．委員自己紹介
３．座長，座長代理選出
４．事務局説明（高知市の概要，財政状況等）
５．質疑応答・意見交換

【委員からの意見等】
・これまでのインフラ投資については，ディフェンシブなイメージを受けた。「地域を活性化する」，「人を集める」というイメージの投資がないように感じた。

・公共インフラを整備することは理解できるが，中山間地域が広く，活用できる土地が限られている中で，目指してる全てのことが達成できるのか疑問がある。一般的な市民としてはどこまでが高知市で，どこからがお隣の南国市なのか，あまり気にしていないのではないかとも思うので，そういった近隣の市町村も含めて考えてはどうかと思った。

・厳しい状況っていうのはよく理解できた。一般的には，収入を増やして，基金を増やし，一方で支出を減らすというのが財政の基本だと思うが，少子高齢化が進展し，基幹産業が乏しい本市では難しい面もあると思う。

・基金の有効活用が必要だと思うので，次回の資料として，基金の運用状況や見直し状況等の資料をご提供いただきたい。

・まず市民に対して弱みを見せることから始めてみたらどうか。市民に危機感を持ってもらい，「市役所が何とかしてくれる」ではなく，市民が参画して市を助けてくれるような高知市にしていくべきではないか。

・ごみ処理の有料化について，これまで議会で否決された等の経過はあると思うが，財源不足の解消のためには，再度検討してはどうか。

・財政問題に特効薬はない。営利企業ではないので，歳入が一気に増えるということは難しく，地道な取組をしっかり継続していく必要がある。また歳出についても，一般的に予算に無駄があると思われがちだが，全ての事業はそれぞれ必要性があって予算化されており，市民全員にとって無駄な予算というものはなく，最後は，取捨選択・比較衡量になるに思う。
　したがって，行財政問題を議論するためには，高知市が他の自治体と比較してお金を使っているところ，また負担が少ないところ等を市民・議会にご理解いただくことがスタートラインだと思う。

・資料では第二次産業と第三次産業がフォーカスされていたが，第一次産業も大事な側面であり，また就業の機会において，第一次産業に従事する方々はかなり困っていると感じる。

・高知市の強みとして，これまでの投資によって良くなった点についての資料を出していただきたい。またそれをどう活かしていくかというストーリーが描ければ市民からの協力も得られやすいのではないか。そういったことを広報紙で発信してはどうか。それは移住希望者へのメッセージにもなるのではないか。

・前向きな議論，事実に基づいた議論ができるような資料の提供をお願いしたい。強みを押さえた上で，何を守るべきという議論が重要。

・高知市がすぐに財政破たんするような急性の危機ではないが，体質を改善しなければいけないということだと感じた。

・財政構造を改革するためには，少なくとも 10 年間の一般財源ベースの収支見通しを示していただくことが，議論をするためには必要である。

・人口減少により事業所税が課税できなくなるということが大きな問題だと思う。それが不可避であるならば，その補てんのために更なる固定資産税の超過税率，または新たな税を導入するのか，あるいは歳出を削減しなければならないのか，といった点は大きな論点だと思う。

・SWOT 分析の実施予定はあるのか。

・今回の資料の投資事業には，オーテピアや送水幹線二重化事業が入っていないが，いずれも他に誇れる事業であり，そういったものも含めて，本市の強みや弱みについて，事業の色分けをしながら示していただきたい。

・市の持っている大綱や計画等を一覧として資料で示していただくことが重要だと思う。これからどのように転換していくかについて，これまでの集大成のイメージを持ちたい。

・国県からの補助金などがある事業と，市独自の財源で行う事業の違いについて，外から見ると分かりにくいので，分かりやすく教えていただきたい。

・短期・中期・長期の収支見通しを出していただきたい。また悪い・普通・良いの３パターンで示していただきたい。

・例えば，くろしおアリーナの屋根やかるぽーとの外壁などに太陽光パネルを設置し，自家消費にすれば，支出削減になるとともに，脱炭素の取組のアピールにもなる。

・浸水対策の効果は私自身も感じているところであり，そういった点はもっとしっかり市民に対してアピールしていくべきではないかと思う。

・固定化しているものの中に、もっとできることがないのか，という検討も入れてはどうか。

・課題先進県であるため，高知県での課題解決のための取組をすれば，今後の他の地域でも活用できるので，そういった点をアピールして国からの財源を確保してはどうか。

・地方の人口減少において，都市部への人口流出については，地方から都市部へ労働力を提供しているという点で国からの補助金等を要求してはどうか

・先日の四国知事会議での大きなテーマのひとつが四国新幹線だった。夢物語ではなく，次の世代のことを考えて議論すべきテーマだと思う。

・これまでの投資事業について，身の丈に合ったものだったかどうかの分析も必要ではないか。京都市では，財政危機の要因として過去の投資事業があったことをはっきり認めている。

・旧高知市と旧町村はあり方がそれぞれ違うはずなので，地域の独自性を踏まえて事業を実施していくべきだと感じた。

・高知市の資源をしっかり評価して，地域に即した発展の仕方を考えるのが基本だと思う。外来的な企業・イベントに過剰な期待はしないほうがいいのではないか。

・前向きな発想のほうが市民の理解を得られやすいではないか。

・収支見通しについて，四国新幹線の話のような，すごく良くなった場合も想定については行政側も出しにくい想定ではあると思うが，そういった点についても議論していくことが懇話会の役割のひとつではないかと思う。

・実際に市民が良いと感じることができる施策を行っていかないといけないと思う。そのためには実際の市民の意見を聞いて，市民の目線で行うことが重要。

・弱みを強みに変えることが重要ではないか。例えば高齢者が多いということであれば，高齢者を元気にすれば医療費や扶助費の削減につながる。そのような施策の経費削減効果・経済効果を市民に発信していく必要があるのではないか。

・移住者の増加，企業誘致，ふるさと納税を増収のための高知市の PR が重要だと感じた。

・財政収支の推計は堅実にやるべきだと思う。その数値をベースして，どのようにしたらこの街が良くなるのかを前向きに議論していくことが重要。

・南国市等の近隣市町村のサービス水準の比較資料があれば，経常経費についての議論がしやすくなると思う。